Laser Compass

最近の競争的資金

佐々木 孝友*

Recent Competitive Research Fund in Japan

Takatomo SASAKI*

世の中は大変不景気であり，特に会社はどこも，かしこもリストラと合理化の嵐に揺れ動いていると言って過言ではない．永年の日本的経営方式というか，要は二番煎じの大量生産型では，生きて行けなくなってきている．そのつけが，いよいよ廻ってきている訳である．我々，日本人がこれだけ裕福になり，世界中に旅行に出かけて，遊びまわれるのも，敗戦後，ひたすらに良い品物を安く大量に生産し，それを世界各国に売ることができたお陰であることは言うまでもない．ここに至って，この稼ぐための方程式が，成り立たなくなって来ている．いわば，日本国民が生き残っていくための根源が危くなってきている訳である．国はそれを察知し，とにかく，世界初のオリジナルなものを日本国内で生み出し，これに生き残り手段をかけるべく対策を打ち出した．これが総計二十何兆円にもおよぶ，科学技術開発費である．オリジナルなものを生み出すのは主として大学，国立研究機関ということで，ここのところ毎年のように「競争的資金」と銘うち，いろいろな形の大型助成金が大学，国立研究機関についてきており，今や，大学，国立研究機関は，未曾有のバブル状態を呈している．

さて，問題はこのように大枚な金額を投資して，本当に日本としてオリジナルで，売れるものが，どんどんと出来上がってくるのかどうかである．金をつぎ込んでなんとかしなくては，ということはよく分かるのだが，私には，どうも，その効果はもうひとつのような気がしてならない．

ある報告会に出たときに，若い研究者の方で，なんとか大型予算を獲得し，しかもなかなか，良い成果を出しておられる方がおられた．その方が言っておられたのは，「成果」が出てはじめてプロジェクトは成功したのであり，「使える成果」が出ないプロジェクトは意味がない，と．ま，うまく行ったのでそのような事が言えるのだ，という風に取れないこともない．また，研究は使えるとか，使えないとかいうような単純なものではないとも言えるかも知れない．しかし，どんなに難しい事を言って見たところで，要は本当に使えるオリジナルな結果がでていなければ，それは，過去の研究のやり方と同じであり，今，日本が目的としていることからは，外れていると言わざるを得ない．

最近，大型予算のレビューアーをやる機会があるが，研究のために買う装置は，おしげもなく米国その他から輸入している．レーザー関係で言えば，高価なフェムト秒レーザーなんか，バンバン購入している．なんかプロジェクトで儲かっているのは米国と輸入業者じゃないの，と言いたくなる．つまり日本の税金が米国に行っている訳である．それは，買わなければ，オリジナルなことができないのなら仕方がないかも知れないが，それだけの金を投入したのなら，回収のできる成果を出さなければ，今までと同じように結果はナアナアでは，これはまずいのではないか．本来，まずどういう方針でやってゆくかという戦略の上で行動を開始すべきであるのに，順序が逆転してしまって先に予算がついてしまっている，という風に思えてならない．

大学の独法化に向け，評価ということが大きな問題になってきている．今やっている大型研究資金の導入も，評価体制というものをしっかり検討することなしに始まってしまっていると考えざるを得ない．お役人さんも，とにかく予算がついてしまっているのでなんとか処理をしなければ，ということが大いにあるように思われる．それでは結局，税金の無駄遣いに終わってしまうのではないか．

*大阪大学ベンチャービジネスラボラトリー，工学研究科電気工学専攻（〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-1）
*Venture Business Laboratory, and Department of Electrical Engineering, Osaka University, 2-1 Yamadaoka, Suita, Osaka 565-0871

2005 Digital Archive; copyright The Laser Society of Japan